

令和元年 7 月 4 日

西部農林振興センター 益田事務所 農業普及部

標 題	「益田市における農福連携に関する情報・意見交換会」を開催 ～真のWIN-WIN関係を築くために～
------------	---

(ダイジェスト)

益田市内には県内でも優良な農福連携の事例がありますが、今後こうした取り組みを市全体に広げていくために、6月25日に市と当事務所の主催による標記会を開催しました。当日は農福連携に係る機関の担当者等22名が一同に会し、お互いの情報を共有すると共に、今後の進め方について意見交換を行いました。

国内の農業同様に、益田市の農業においても労働力不足が大きな問題となっており、益田市農業担い手支援センターではその実態を把握するため、認定農業者等に対してアンケート調査を行うことにしています。先日開催された認定農業者連絡協議会の総会でも労働力不足が話題となり、そして来賓あいさつで触れた農福連携に関しても関心と期待を寄せる農業者が多いことが分かりました。

こうしたことから今回、「真のWIN-WIN関係を築くために」と題した情報・意見交換会を開催し、最初に農業技術センターの宮廻課長から出雲市の事例（ぶどう）とそれを踏まえた推進上の留意点について紹介してもらい、その後お互いの状況や課題等について詳しく説明してもらいました。出席者からは「各機関の関わり方が良く分かった」「長い目で考える必要がある」といった意見があるなど、大変有意義な会になりました。時間が押したため「今後の進め方」について十分に議論することはできませんでしたが、今後は主な機関が集まり、アンケート結果を踏まえながら具体的な検討を行っていくことにしています。

《参集機関》

益田市認定農業者協議会、益田市農林改良青年会議、益田市農業士会、JAしまね西いわみ地区本部
福祉事業所（フルール益田・こころクラブ海陽堂）、益田障がい者就業・生活支援センター、益田養護学校
NPO 島根県障がい者就労事業振興センター、西部高等技術校、農業技術センター
益田市（農林水産課、障がい者福祉課）、西部農林振興センター益田事務所
* 今後、アンダーラインの機関で「(仮称) チーム益田農福」を編成し、検討開始予定

現在、県内各地で農福連携の動きがありますが、その多くは点（事業所）と点（農業者）を結んだ線的な取り組みでしかなく、より広げていくためには面的な展開が必要であり、まずは市町村単位で関係機関が集まることがその第一歩だと思います。そして、その際には労働に見合う対価（労賃・工賃）がしっかりと支払われ、農業者と事業所（＝利用者）の間に真のWIN-WIN関係が築かれるように検討することが重要となります。



農福連携はまだまだ多くの課題を抱えています。その解決に向けて関係機関が一丸となる「関関連携」をしっかりと築いていきたいと考えています。